

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ペーテルの夢		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 3 月 2 日		～ 令和 8 年 3 月 13 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 8 年 3 月 10 日		～ 令和 8 年 3 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 6 月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動(ものづくり) 地域交流(自治会が運営している畑での農作業) 動物介在療法(馬、犬や小動物) 表現活動(リズム、歌等) 	<ul style="list-style-type: none"> 段ボール工作やレジン作り、簡単な家具づくり、プログラミングを協働で取り組み協調性、認知行動面、巧緻性等の向上を図っている。 土を耕し種を植え作物を育て、調理していただく。この工程を通していのちの有難さを知り、自然からのエネルギーを受け取り情緒の安定と食育に繋げている。 事業所外施設との連携を図り、保護馬、引退馬、保護動物などとのふれあい活動を通して、乗馬、グルーミング、厩舎の掃除等の体験を通し精神機能と運動機能の向上を目的としている。 リズムに合わせた自由な表現をすることで、心身のリラックスや運動による巧緻性の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で作物を育てることで、食文化の理解、食への感謝の気持ちなどを育むことを目指している。 地域参加することで他者への信頼や思いやり、コミュニケーション力を育む。 動画作成や編集を自分たちで考え試行錯誤しながら振り返りを記録することで考える力を身につけ、創造性、協調性を伸ばしていく。 動物介在療法ではいのちの大切さ大きさを知り、実際に触れ合うことで愛しむ心や自信につなげていく。 歌やピアノ、ギターやトランペット等の楽器に触れたりすることで興味関心を促し感性を磨く。
2	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個別での寄り添い支援と丁寧な関わり 思春期への様々な年代からのアプローチが図れている。(「ナナメの関係」で作る居場所) 	<ul style="list-style-type: none"> 個別で得意や苦手などの特性に合わせて、気持ちや一人ひとりに寄り添いながらのトレーニングを心がけている。 教育学部特別支援教育専修や保育課の大学生のアルバイト生「ナナメの関係」による信頼関係を構築。自分の気持ちを安心して伝えることができることで意欲と創造性を伸ばせるようにしている。 戸外活動を多く取り入れ、沖縄の環境や歴史、地域や自然に目を向けたプログラムを積極的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 思春期の子どもにとって変化が激しい時期、この時期を乗り越え自立し成長できるように気持ちに寄り添い、見守り、親子共にサポートできる体制を整えていく。 子どものありのままを受け入れ強みや本来の力を伸ばせるように応援していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校や関係機関との連携が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援のための児童生徒の民間施設体験受け入れを行い、上記の活動(創作活動やの畑作業、居場所の提供)による主に心理的安定を図っている。 利用児童の関係機関との連携を小まめに行い、課題解決に向けた支援者会議等を適宜行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動6区分27項目のチェック項目に基づき、自立支援活動の提供、課題の提出等を行い学校と連携、出席扱いや評価の対象としていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 施設構造の脆弱さがみられる。 バリアフリーの構造ではない。 雨天時、室内での広さが確保できず、十分に体を動かすためのスペースが少ない。 高学年児童のトイレ、排泄介助時のスペースが狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設構造が一軒家の為、個室にての個別支援の確保は十分にとれるが集団での活動(体を動かす等)のスペースが確保できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な施設などの整備をする。 雨天時などは事業所外施設(体育館、スポーツ競技場、児童館や公園、畑等)を利用し安全面に留意しながらスペースを確保する。 年齢に応じた更衣室のスペースを工夫して確保する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 車両保管場所が少なく、ペーテルcaféの開催における駐車場や来客時の駐車場スペースがない。 場所や駐車場の観点から保護者会やペーテルcaféの開催など、保護者同士の交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設から離れた場所(車で3分)に駐車場がある為、事業所内での開催が難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所外の施設を利用し、保護者の集まりや懇談会などを開催できるように工夫し、保護者同士の交流の場を設けられるように、家族支援、きょうだい支援を行えるようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校の広範囲になり、各方面からの学校の友だちは出来るが、児童の居住地域との関わりが希薄になる。 送迎の範囲が広いため送迎時間に時間がかかる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠方からの利用児童に関しては進学の際等、地域との繋がりが希薄な為、1からの構築になることも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ社会の一環として、お互い理解し寄り添い助け合える居場所を確保し、個々のウェルビーイングを向上させていく。